

## 落葉果樹の樹勢健全化を目指す ～モモ・ブドウ編～

佐賀県果樹試験場 落葉果樹担当 係長 太田 政隆

～モモ～

モモは排水が良い土壌条件で健全な生育が可能です。モモの主産地(福島市、長野市、甲府市、岡山市)の年間降水量(平年値)が900～1,200ミリであるのに対して、本県は1,870ミリ(佐賀市)と雨が多く、特に梅雨から9月にかけての降水量が多いため、年によっては糖度が低く、新梢が遅伸びして樹が過繁茂になりやすい栽培条件です。そのため、強せん定になりやすく、樹齢の経過とともに樹勢が低下し収量確保が難しくなります。モモの樹勢を維持し、収量を確保するためには排水性を重視した土づくりと樹勢に応じた枝管理が重要です。

### 【排水対策・土づくり】

モモは果樹の中で最も湿害に弱いため、排水が良い土壌であることが重要です。排水不良園では樹勢の低下により収量が上がらないうえに、生理落果が多発したり、樹勢の衰弱により経済寿命が短くなります。果樹は植え付けた後の土壌改良は難しいので、植え付け時には地表下1m以内に地下水が出ない畑を選び、暗きょや明きょなどの排水対策を万全に行う必要があります。

モモの排水不良園ではいや地現象が強くなりやすいため、モモの改植は避けてください。

モモの樹勢の健全化に大切なことは、健全な根を増やす土づくりです。土壌物理性を改善するためにSSや運搬車が入って硬くなった土壌を深耕し、有機物を投入して水はけの良い軟らかい土壌を計画的に作りましょう。雨の後に水が溜まりやすい園地では、外からの水の流入を防ぎ、溜まった水の排水対策を行ってください。

### 【こまめな新梢管理が大切】

モモは冬のせん定で大量に枝を切ると、翌春に反発して新梢が伸び出し、生理落果も多くなります。また、冬のせん定に偏ると貯蔵養分を浪費し、樹齢が進むにつれて樹勢が低下します。そのため、新梢はできるだけ切らずに捻枝や誘引、摘芯をこまめに行うことによって冬のせん定を軽くし、樹勢を落ち着かせる必要があります。特にモモは収穫後から落葉までの期間が長いため、この時期の新梢管理を丁寧に行ってください。なお、新梢管理の具体的方法については本紙の「今月の果樹園管理」に詳しく書いてありますので、ご参照ください。

#### ○樹勢が旺盛な樹の枝管理

樹勢が旺盛な樹では、秋季せん定でふところ部を中心に強勢な徒長枝などを切ります。日当たりを良くすることで花芽の充実を促し、樹勢を落ち着かせます。冬のせん定は翌年の新梢伸長を抑えるためにできるだけ軽くし、生育期の新梢管理をこまめに行います。

#### ○樹勢が弱い樹の枝管理

樹勢が弱い樹では、生育期に枝を切ると樹勢を落としますので秋季せん定は避けます。冬のせん定では主枝・亜主枝・側枝の先端から強い新梢が出るように切り返します。葉数確保のために枝のせん除は最小限にとどめ、できるだけ枝を残します。翌年発生する新梢もできるだけ切らずに対応します。

#### ○主枝・亜主枝の先端は強く保つ

樹勢が強い樹では基部から発生する徒長枝の発生を抑えるため、樹勢が弱い樹では先端から強い新梢を発生させて樹勢を強くするために、主枝・亜主枝の先端を強く維持する必要があります。先端が一番強くなるように高く誘引し、先端と競合しない枝は極力残して葉数を確保してください。

主枝や垂主枝が垂れ下がる場合は、下に支えの棒を入れたり、吊り上げてください。

#### 【日焼けやひもの食い込みに注意】

##### ○日焼け対策

主枝・垂主枝が屈曲したり、急に細くなると、その部分に樹液が停滞して日焼けや樹液が出やすくなりますので、屈曲しないように伸ばしてください。

主枝・垂主枝の背面に直射日光が当たると日焼けを起こして樹皮部がぼろぼろになり、新しい枝が発生しにくくなります。背面に直射日光が当たらないようにせん定時に日陰枝を設け、強すぎない新梢を捻枝や誘引、摘芯してください。特にハウス栽培では、展葉していない時期の日射が日焼けを助長しますので、せん定後に太枝の背面にはホワイトパウダーを3倍に希釈して塗ってください。

特に棚栽培は日焼けしやすいので、日焼け対策を万全に行ってください。

##### ○誘引ひもの食い込み防止

モモの若木は生育が旺盛なため、誘引ひもをそのままにしておくと幹や枝に食い込みます。その部分からは樹液が出たり、折れやすくなって樹が弱りますので、時々確認して結び直してください。

主枝・垂主枝など大きな枝を誘引する場合は、直接ひもを結びつけると大きな力がかかって枝に食い込んだり、樹液が出て樹勢低下につながりますので、枝と棚線の間や太枝の下には使わなくなったホースなどをはさんで食い込みを防止します。

##### ○カイガラムシ対策

近年、カイガラムシ類による被害により樹勢低下した樹が多くみられます。本虫に対して最も効果が高いのはマシン油乳剤です。マシン油は油でカイガラムシを覆い、窒息させて殺しますので、一般の殺虫剤のように薬剤抵抗性が発達して効かなくなることがありません。年内にマシン油乳剤を樹体の隅々までかかるように十分量を丁寧に散布してください。

モモの葉がある時期は、発生したばかりのカイガラムシの幼虫が防除対象となります。最初に発生する第1世代の幼虫は発生時期が揃いますのでこの時期の防除が最も重要です。本虫の発生時期は温度が影響し、地域ごとに発生時期が異なりますので、指導機関から指示される日に確実に防除を行ってください。

なお、樹勢が低下している園ではマシン油散布を行うと新梢の枯れこみが発生しやすいため、日頃から肥培管理による樹勢強化に努めるとともに、カイガラムシの寄生量が少ないうちに冬季マシン油を散布してください。

#### 【貯蔵養分をしっかりと貯める】

収穫後から落葉までの期間は、翌年の生産の基となる貯蔵養分を樹体に蓄積する大切な時期です。樹勢を早急に回復させるために、収穫後は十分な灌水、樹勢や結果量に応じた施肥を適期に行ってください。また、ハダニやハモグリガ等による早期落葉を防止するために、収穫後の防除も忘れずをお願いします。

#### 【貯蔵養分の無駄使いをなくす】

モモは開花後1か月頃までの生育は貯蔵養分でまかなわれます。開花には多くの貯蔵養分を必要とし、最終着果量は咲いた花の5%程度に過ぎません。不要な蕾や花を落として早期展葉させることは非常に重要です。樹勢が弱い樹や老木では摘蕾・摘花を確実に行ってください。

～ブドウ～

○ブドウ

**【巨峰（有核栽培）】**

巨峰は老木が多く、収穫後のべと病や褐斑病による早期落葉に起因する種枝の充実不足から、収量が十分に上がっていないのが現状です。巨峰で9月に早期落葉すると翌年の花穂が弱く、小さくなることが確認されていますので、11月の落葉期まで葉を健全に保つ必要があります。収穫後もICボルドー等で定期的に防除を行ってください。また、乾燥が続く場合には灌水を行ってください。

ブドウは樹勢が弱ると花が着きやすくなり、葉と花房が同時に生長するため葉数が不足します。樹勢が低下した樹では葉数確保のために摘房を早めに行い、思い切って落としてください。

せん定も樹勢が弱い樹では強めに切り、短い予備枝を配置して、増肥し、強い新梢を出すようにします。

**【無核栽培（ピオーネ・巨峰）】**

無核栽培では短梢栽培が基本となります。短梢せん定は長梢せん定と違い、枝の切り方や誘引角度で樹勢の調節ができないため、結果量の見直しと樹勢に応じた施肥、土づくり、灌水等の土壌管理を丁寧に行って樹勢を維持してください。

**【シャインマスカット】**

樹勢が強い品種ですが、現地では葉が小さく、葉色が薄く、樹勢が弱い樹が多くみられます。主な原因として早くから成らせすぎることと灌水不足があげられます。

シャインマスカットは、結実を初めて2～3年目までは果粒肥大が劣り、立派な房ができません。植え付け3～4年目頃までは無理に成らせず、樹づくりに専念してください。

また、本種は水を好み、生育期間を通して畝がやや湿っている状態が理想です。真夏に晴天が続いた場合は、乾きやすい土壌では2～3日おき、水持ちの良い土壌でも5～7日おきに20～30リ（1m<sup>2</sup>当たり20～30ℓ）程度の灌水が必要です。圃場の水持ちは地域や園地ごとに異なりますので、圃場にはテンションメーターを設置してpF値1.8を維持するように灌水してください。

本種はべと病に対しては巨峰より強いですが、黒とう病には巨峰より弱いため、シャインマスカット栽培はトンネル栽培かハウス栽培が前提となります。ビニル除去後は収穫後の遅伸びした副梢に黒とう病が発生するため、摘芯を徹底して、収穫後もICボルドー等で定期的に防除を行ってください。

シャインマスカットの施肥はピオーネに準じますが、樹勢が強いと花ぶるいもみられるため、樹勢や地力に応じて加減し、花肥等で調整してください。

モモとブドウは結実が早いという利点があります。老木や樹勢が低下して収量が低い園では事業を活用して新植・改植に取り組んでください。

表1 モモ、ブドウの土壌適応性（農水省果樹試験場 1985年資料抜粋）

	モモ	ブドウ
耐湿性	弱	強
耐干性	中～やや強	やや強
土壌物理性に 対する要求度	空気の要求度大	水分と空気の要求度大
土壌条件	砂質土壌が最適で、排水 不良地は不適	透水性、通気性の良い やや粘土質土壌が適
肥料に対する 適応性	吸肥力が強い。窒素過多 を嫌う	窒素に敏感に反応し、 過剰吸収の害が出やすい